

8.10 交通渋滞

8.10.1 調査事項

調査事項は、表 8.10-1 に示すとおりである。

表8.10-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
予測条件の状況	・ 工事用車両の走行の状況 ・ 一般車両の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、極力、沿道に住宅等が存在しない湾岸道路等を利用する。 ・ 工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画としている。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等、通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画としている。

8.10.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.10.3 調査手法

調査手法は、表 8.10-2 に示すとおりである。

表8.10-2 調査手法

調査事項	工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度	
調査時点	工事用車両の走行台数が最大となる 2017 年 11 月（工事着工後 6 か月目）とした。	
調査期間	予測した事項	代表的な 1 日の内、工事用車両の走行時間及びその前後 1 時間を含む時間帯とした。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】「予測した事項」と同時期とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の 2 地点(図 8.1-1(p.40 参照)に示す地点 No.1 及び 2)とした。
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】工事用車両の出入口とした。 【一般車両の状況】工事用車両走行ルート上の 2 地点(図 8.1-1(p.40 参照)に示す地点 No.1 及び 2)とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	ハンドカウンタによる計測（大型車、小型車の 2 車種分類）及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。
	予測条件の状況	ハンドカウンタによる計測（大型車、小型車の 2 車種分類）及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.10.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
工事用車両台数が最大となる時期における工事用車両台数は、表 8.10-3 に、また、計画地周辺の断面交通量は、表 8.10-4 に示すとおりである。

表 8.10-3 工事用車両合計台数調査結果 (2017年11月10日(金))

車種	車両台数 (台/16h)
大型車	227
小型車	127
合計	354

注) 表中の日当たりの車両台数は、6:00~22:00 で集計している。

表 8.10-4 自動車交通量の現地調査結果 (2017年11月10日(金))

調査地点		断面交通量 (台/16h)		
		大型車	小型車	合計
No. 1	都道 318 号環状七号線 (環七通り)	7,330	22,259	29,589
No. 2	都道 308 号千住小松川葛西沖線 (船堀街道)	1,663	5,420	7,083

注) 予測地点の番号は、図 8.1-1 (p.40 参照) に対応する。

2) 予測条件の状況

ア. 工事用車両の走行の状況

工事用車両の状況は、「8.1 大気等 8.1.4 調査結果 2) 予測条件の状況 ウ. 工事用車両の状況」(p.47 参照) に示したとおりである。

イ. 一般車両の状況

工事用車両の状況は、「8.1 大気等 8.1.4 調査結果 2) 予測条件の状況 エ. 一般車両の状況」(p.48 参照) に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.10-5 に示すとおりである。なお、交通渋滞に関する問合せはなかった。

表8.10-5 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 工所用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、極力、沿道に住宅等が存在しない湾岸道路等を利用する。 	朝礼（写真8.10-1）等を通じて、運転者には、湾岸道路の使用など走行ルートの限定に関して事前指導し、交通渋滞による影響を低減するように努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 工所用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画としている。 	朝礼（写真8.10-1）等を通じて、運転者には、走行ルートの限定及び安全走行に関して指導を行った。また、事前に搬入車両台数及び時間帯を確認することにより、工所用車両（主にダンプトラック、生コンクリート車等）の集中を避け、平準化を図った。
<ul style="list-style-type: none"> 工所用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画としている。 	工所用車両は施工ヤード内に誘導するとともに、工程会議（写真8.10-2）等で周辺市街地での待機や違法駐車防止の徹底について指導を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等、通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 	朝礼（写真8.10-1）等で工事作業員の通勤には公共交通機関を利用するよう指導を行い、通勤車両の増加を最小限にした。
<ul style="list-style-type: none"> 工所用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画としている。 	計画地周辺の車両の通行に支障を与えないために、工所用車両が出入するゲートには、交通整理員を配置（写真8.10-3）することで、計画地への車両の出入を円滑にした。



写真 8.10-1 朝礼時



写真 8.10-2 工程会議



写真 8.10-3 交通整理員

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度

工事用車両台数が最大となると想定された代表的な1日における、工事用車両台数の予測条件とフォローアップ調査結果との比較は、表 8.10-6 に、断面交通量の予測条件とフォローアップ調査結果との比較は、表 8.10-7 に示すとおりである。

フォローアップ調査における工事用車両台数は、評価書において設定した工事用車両台数に比べて、大型車で11台/16h、小型車で95台/16h上回っており、小型車の増加率が大きいものとなっていた。小型車では入方向で6:00~8:00、出方向で16:00~18:00に集中する傾向がみられた。これは、予測時の条件として設定できなかった作業員の移動に伴う車両の走行によるものと考えられる。(表 8.1-19 (p.56) 参照)

フォローアップ調査結果における断面交通量は、大型車、小型車の合計で評価書において設定した台数を上回っていたものの、No.1及び2地点とも、小型車が増加し、大型車が減少していた。合計台数の増加率は、No.1で9%、No.2で2%であり、増加の割合はいずれも1割未満であった。(表 8.1-18 (p.56) 参照)

表 8.10-6 予測条件とフォローアップ調査結果との比較（工事用車両台数）

区分	工事用車両台数（台/16h）	
	評価書	フォローアップ調査
大型車	216	227
小型車	32	127
合計	248	354

表 8.10-7 予測条件とフォローアップ調査結果との比較（断面交通量）

予測地点	道路名(通称名)	断面交通量（台/16h）					
		評価書			フォローアップ調査		
		大型車	小型車	合計	大型車	小型車	合計
No.1	都道 318 号環状七号線 (環七通り)	9,029	18,234	27,263	7,330	22,259	29,589
No.2	都道 308 号千住小松川 葛西沖線 (船堀街道)	2,221	4,705	6,926	1,663	5,420	7,083

注) 予測地点の番号は、図 8.1-1 (p.40 参照) に対応する。

出入口における工事用車両台数は増加したものの、大型車の増加台数はわずかであった。工事用車両の走行に当たっては、湾岸道路の使用など走行ルートに関して事前指導するとともに、朝礼等を通じて、規制速度の厳守、安全走行の徹底等、運転者への指導を行った。

以上のことから、工事用車両の走行に伴い、交通渋滞に著しい影響はないものと考えられる。